

10年振りの母校

鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科 高吉 進

私は今年度の4月から鹿児島医療技術専門学校の言語聴覚療法学科の教員になりました。元々、本校の卒業生であり、10年間の臨床を経て、本校に帰ってきました。卒業当時を振り返ってみると、まさか私が本校の教員になるとは夢にも思っていませんでした。人生何が起こるかわからないものですね。

さて、10年振りに本校に帰ってきてはじめて感じたことは言語聴覚療法学科の職員室が広くなったことです。それもそのはず、私が学生の頃の校舎は3棟でしたが、現在は5棟になり、職員室や学生の教室もゆったり広々としています。また、教育課程も3年課程から4年課程に変わり、講義日程はゆとりがあります。ゆとり第一世代である私にとっては非常にやりやすい環境です。教育課程が4年間になった分、学費は嵩みますが、その分は社会勉強を兼ねてバイトに励む学生も多いです。

教育課程が4年になった利点として、科目数が増えました。個人的に興味深いのは研究の科目が増えたことです。本校では1年生から研究をはじめます。1年生の研究のテーマは言語聴覚療法に限らず、日常生活の中での疑問もテーマにしています。まずは物事に対して、深く考える思考を身に付けます。3~4年にかけては言語聴覚療法をテーマにした研究を行い、専門的な知識を深めます。研究データを測定する際にはNIRSや舌圧計、ナゾメータ等の検査機器を使用するなど、定量的な評価も行っています。最終的には言語聴覚萌芽研究という研究論文集をクラスで作成しています。このような研究活動を通して、知識を深めると共に学生に達成感を味わってもらえればと思います。教員になるまでの私は臨床

をしながら、研究活動も行っていたので、研究の重要性は身をもって感じています。

教員になり、日が浅く、わからないことばかりですが、上司・同僚に支えていただきながら、仕事に励んでいます。学生指導は一筋縄ではいかず、悪戦苦闘の日々です。1日でも早く学生の興味を惹きつけるような授業をしたいと考えています。そのためにも学生はどんなことに興味を持っているのか、普段から学生と話をていきたいです。また、学科のオリエンテーションやクラス会では学生の普段はみられない色んな一面がみられて楽しいです。余談ですが、入職して直ぐの学科オリエンテーションのドッジボール大会で張り切りすぎて古傷の左肩を脱臼しました（脱臼癖になっているので、脱臼しても自分で治せるのですが）。

最後に、今後の抱負としまして、学生が充実した学校生活を送れるように関わっていきたいと思います。非常に抽象的な抱負ではありますが、これから、学生が充実した学校生活を送るための具体的な要因を探っていきます。そもそも教員生活を送る上で永遠の研究テーマかもしれません、根気強く頑張っていきます。